

V 臨時的調査研究（4）ナラ枯れ防除事業の効率的・効果的実施方法の検討

（実施期間：平成30年度 予算区分：県単 担当：西信介）

1 目的

カシノナガキクイムシ（以降「カシナガ」）が繁殖しているナラ類からカシナガ成虫の脱出を防止するには、厚さが0.1mmの透明ビニール（Polyvinyl chloride）シート（以降「厚手PVC」）を被覆する方法が効果的で、事業的に用いられている。事業では3年経過後に厚手PVCを除去することになっているが、複数年経過後の脱出状況については分かっていないことも多いので、今回、穿入生存木の被覆4年目と枯死木の被覆3年目の脱出状況を調査した。

また平成28年度より実施されているカシナガトラップ（以降「KMC」）による予防事業では、清掃を徹底すると捕獲数が増加すると指摘されているので、清掃状況と捕獲数について検討した。

2 実施概要

（1）方法

平成27年度及び平成28年度に厚手PVC被覆した穿入生存木及び枯死木について、脱出してくるカシナガを捕獲、定期的に回収、計数した。

ミズナラにKMCを設置、通常通り週1回捕獲した昆虫の回収と捕虫器の分解清掃、漏斗の大きなゴミを取り除く「通常区」と通常区に加えエアダスター等で徹底的に清掃する「徹底清掃区」及び通常区と同様の清掃・昆虫の回収を、週に2回行う「週2回区」を設定してカシナガ捕獲数を比較した。

（2）結果

穿入生存木の厚手PVC被覆では、被覆4年目は平均240頭/本のカシナガが脱出した。被覆がない穿入生存木でも平均181頭/本のカシナガが脱出したが、4年目脱出数に有意な差はなかった。

枯死木の厚手PVC被覆では、被覆3年目は平均10頭/本、被覆がない場合は平均62頭/本のカシナガが脱出したが、両区とも、前年と脱出数に有意な差はみられなかった。平成27年度の穿入生存木に厚手PVC被覆、翌年に枯死した木では、枯死後2年目は平均108頭/本のカシナガが脱出した。

KMCでは「徹底清掃区」と「通常区」ではカシナガの捕獲数に有意な差はなかったが、「週2回区」は、他に比べて捕獲数が多かった。これは調査期間中に台風の接近、通過や前線で強風が吹き、トラップが破損した場合があり、「週2回区」は破損に対して迅速に補修、再設置ができたため、カシナガの捕獲数が多くなったと考えられた。

3 結果の図表と研究の様子

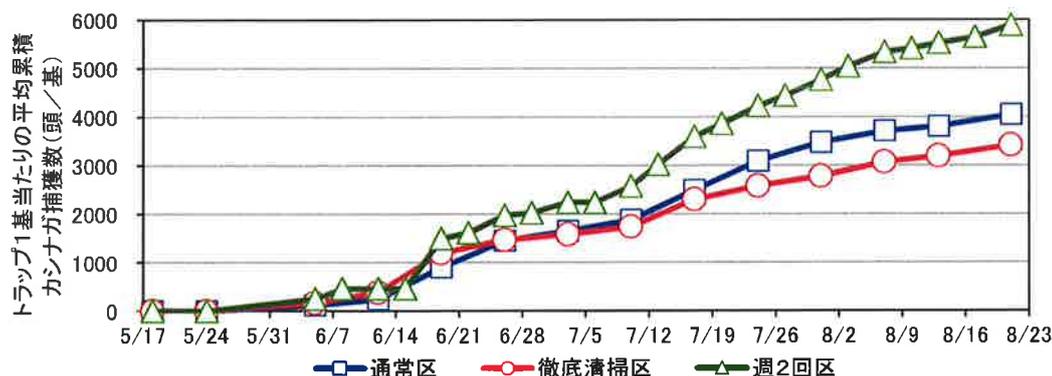


図 トラップ1基当たりの平均累積捕獲数の推移